

---

# 山梨大学教育学部附属教育実践総合センター

## センターだより 第185号（通巻第252号）

---

2020年6月30日 発行  
山梨大学 教育学部  
附属教育実践総合センター  
TEL 055-220-8325、FAX 055-220-8790  
E-mail: jissen@ml.yamanashi.ac.jp  
URL: <https://www.edu.yamanashi.ac.jp/aepc/>

※このセンターだよりで紹介した研究会、研修、教育フォーラム等に関するお知らせは、改変しない限り、自由に複写、配布していただいて結構です。

### ■ 実践センターWebのURL(アクセス先)が変わりました

今年度から、当センターWebのサーバーが代わり、トップページのURL(アクセス先)が「[www.cer.](http://www.cer.)・・・」から以下に変更され、サイト全体も再構成されました。どうぞ、よろしくお願いたします。

<https://www.edu.yamanashi.ac.jp/aepc/>

### ■ 令和元年度の教員育成支援状況報告書が公開されました

教育学部教員の山梨県等の教員育成に関する支援実績を年度ごとにとりまとめた教員育成支援状況報告書は、平成29年度から作成されています。このたび、最新の令和元年度の報告書を、センターWebにおいて公開しました。

<https://www.edu.yamanashi.ac.jp/aepc/2307/>

から、直接閲覧することもできますし、当センターWebのトップページから「事業報告・調査結果・研究成果等」のメニューを選択して表示することもできます。

### ■ 福井大学教育学部に実践教育・教職支援の動向調査に行ってきました

教職支援部門では、2020年3月9日（月）に福井大学教育学部を訪問し、教育現場での学生の活動などの実践的な教育カリキュラムや教職支援について動向調査を行いました。福井大学では、年度末の多忙な時期であったにもかかわらず、山本博文教育学部長、大山利夫附属義務教育学校長、遠藤貴広先生、大西将史先生、廣澤愛子先生が快く対応くださり、授業カリキュラム、教採対策、附属学校、教職大学院の様子など、様々なお話を伺うことができました。

動向調査の概要については教授会の場でも紹介させていただきましたので、ここでは学部の教育カリキュラムについて書かせていただきます。

福井大学では学部の教職科目は、教育実践研究A・教育実践研究B・教育実践研究Cという3つのカテゴリーに分かれているそうです。A・B・Cの科目群は、それぞれ複数の教職必修科目、教育実習または学校での現場体験で構成されています。複数の教職の必修科目と実習、現場体験が相互に繋がりをもち、学校での現場体験が授業科目で構造化されるなど、学びの関連性や意義が見えるように編成され

ている点に特徴を感じました。これらのカリキュラムでは、異コース・異学年で学生がチームを編成し、教育実践や教職に関する協働探究を重ねたり、探求の成果を内外に口頭発表する場をもったりといった工夫も凝らされていました。発表の場には県内の高校生を招待し、また学生のレポートを冊子にまとめることも行われていました。これには、発表や記録を重ねることで上級生から下級生に、大学生から高校生にという、世代継承の意味合いもあるそうです。

教育実践研究Bには、「探究ネットワーク」という隔週土曜日、大学生が異コース・異学年のチームで地域の子どもの支援する活動（1年必修、2～3年選択）が含まれていました。これは、山梨大学の教育ボランティアに似た活動といえます。この活動では、1年生は、子どもたちと遊ぶことを通して子どもと関わる楽しさを知ることができるようです。

教育実践研究Cには、「ライフパートナー」という県内4市の不登校・発達障害児を大学生が支援する活動（2年生必修、3年生選択）が含まれています。こちらは、山梨大学の地域学習アシストに似た活動です。2年生必修ということで、地域に多くの学生を派遣していることになりませんが、長年継続していくことで、様々なノウハウが蓄積されてきたということです。山梨大学の地域学習アシストは昨年度始まったばかりですが、一つの事業を継続することや長期的な視点を持つことの大切さを学ばせていただきました。

他大学の事例を伺うことで、こんなやり方もあるのだと気づかされます。とりわけ、福井大学の先生方は笑顔で楽しそうに活動についてお話くださったことが印象に残りました。

地域学習アシストは課題山積ではありますが、はじめから全て完璧な形に整えるのではなく、できることから一つ一つ実現し、ゆっくり活動の輪を広げていけばよいのではないかと思います。

本訪問は、文部科学省の令和元年度概算要求「教員養成機能の強化に向けた教職支援部門（教職支援室）の拡充—教育事業「地域学習アシスト（課外学習）」」の事業の一環です。教職支援部門では、今年度も動向調査を行う予定ですが、新型コロナウイルス感染拡大の状況もみながらの調査となりそうです。今年度も可能な範囲で事例調査を行い、先生方に発信していきたいと思っています。

（長谷川 千秋）

## ■ 国立大学教育実践関連センター協議会 COVID-19の教育実践への影響に関する情報交換会に参加しました

6月25日（木）に、国立大学教育実践関連センター協議会の主催で、表記の会議が以下のように開催されました。全国の教員育成関連のセンター所属の25大学から30名が参加し、本学からは、教育実践研究部門 情報教育研究領域の成田准教授が参加しました。教育実習など、十分な配慮や対策が必要なことに関しては、多くの大学で夏季休業の後に実施時期をずらしているため、今後も同様の方法で情報交換をしていくことが確認されました。

日時 2020年6月25日(木) 16時～17時45分

目的 COVID-19の教育実践への影響に関して、各大学の取り組みや課題について情報交換し、今後の課題について議論する。

接続 zoom meeting を利用。

話題

- ・学部授業等におけるオンライン授業等の実態と課題
  - ・講義形式授業におけるオンライン授業
  - ・教育実習
- ・地域の学校、教育委員会等との連携・協力
- ・その他

---

これまでのセンターだよりの一部は、<https://www.edu.yamanashi.ac.jp/aepc/2306/> で見ることができます。